

横浜商科大学2019年度入試ミス報告書

1.概要

(1) 学部名	商学部	
(2) 入試方法区分	2019年度一般入試A日程、B日程 国語、英語、地歴・公民の3教科の内、2教科を選択し、成績により判定 地歴・公民については日本史、世界史、政治・経済の中から1科目を選択	
(3) 試験実施年月日	2019年2月1日	
(4) 合格発表年月日	2019年2月7日	
(5) ミスのあった試験科目	政治・経済	必須 選択
(6) ミスの内容	<p>【A日程】</p> <p>・問29 本問で挙げているSNA(国民経済計算)は、NNPなどから導出される数値ではないため、④を正解としていたが、選択肢の中に正答が存在しない設問となった。</p> <p>・問30 ②を正解としていたNNWの日本語名である「国民純福祉」が選択肢の中になかったため、正答が存在しない設問となった。</p> <p>・問39 供給曲線が右にシフトする原因として適当でないものを選ぶ問題であるが、正解としていた④以外にも適当でない選択肢が2つあり、正答が存在しない設問となった。</p> <p>・問40 市場の失敗の例として適当でないものを選ぶ問題であるが、正解としていた②以外にも適当でない選択肢が2つあり、正答が存在しない設問となった。</p> <p>【B日程】</p> <p>・問35 「地球温暖化対策」についての説明として適当でないものを選ぶ問題であるが、正解としていた②も含めすべて適当な選択肢であり、正答が存在しない設問となった。</p> <p>・問37 「再生可能エネルギー」についての説明として最も適当なものを選ぶ問題であるが、正解としていた①は適当でない選択肢で、他の3つの選択肢がすべて適当な選択肢であり、正答が存在しない設問となった。</p> <p>・問39 「スマートグリッド」についての説明として適当でないものを選ぶ問題であるが、正解としていた③も含めすべて適当でない選択肢であり、正答が存在しない設問となった。</p>	
(7) ミスのあった問題の抜粋		

【A日程】

・問29、30

(問題文抜粋) SNAとは、からをひき、を加えることによって導出される。生産活動をより正確に測定するためには、こうした活動も考慮に入れる必要がある。こうしてNNW(日本語名)は計算されている。

(設問) 問 文中の空欄 ～に入る最も適当なものを、下のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

① 国内所得 ② 海外所得 ③ 外国人所得 ④ 国民所得

① 国民経済 ② 経済計算体系 ③ 国内経済計算 ④ 資本計算

・問39

下線部(f)のようなシフトが起こる原因として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①財の生産費用が大きくなった。
- ②新規参入が起こり、財の総量が増加した。
- ③技術革新により、財の価格が増加した。
- ④増税が行われた。

・問40

下線部(g)に関連して、市場の失敗の例として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①工場の排煙に有害物質が含まれていて、近隣住民の健康被害が発生する。
- ②財の売り上げが減少したため、企業の収益が赤字になる。
- ③公共サービスを受けても、料金を請求される。
- ④どのような財サービスにおいても正しい価格付けがなされる。

【B日程】

・問35

下線部(a)についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①環境税・補助金などが経済的な制度として整えられている。
- ②直接規制以外に、京都議定書で提起された排出権取引制度がある。
- ③2012年に日本でも炭素税が導入された。
- ④排出権取引制度が日本でも導入されている。

・問37

下線部(c)についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①再生可能エネルギー資源は化石燃料資源と比較すると、特定の地域に集中して偏在していることが多い。
- ②太陽光発電や風力発電は気象や季節などで変動する性質のものである。
- ③再生可能エネルギーの導入コストは化石燃料と比較して高いものが多い。
- ④化石資源は枯渇性で有限であるが、再生可能エネルギーは非枯渇性でほぼ無限である。

・問39

下線部(e)についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

39

- ①バイオマス発電は間伐材や下水道の汚泥が使われる。
- ②再生可能エネルギーの発電単価は石油火力よりも高い。
- ③太陽光・風力は発電量が安定した恒常的な供給源である。
- ④日本ではサンシャイン計画が最初の技術開発計画である。

(8) 当該ミスへの対応

当該問題については正答が存在しないために、当該問題の採点を行わず、政治経済の他の設問の配点をその分多くし、再度採点を行う。A日程については当該問題4問で計10点分を採点せず、他の設問の配点を100/90倍する措置をとる。B日程については当該問題3問で計6点分を採点せず、他の設問の配点を100/94倍する措置をとる。

(9) ミスのあった問題の配点	A日程 問29：3点、問30：3点、問39：2点、問40：2点 B日程 問35：2点、問37：2点、問39：2点
-----------------	---

(10) ミスのあった科目の満点	100点
------------------	------

(11) 入試方法区分の満点	300点（国語100点、英語100点、地歴・公民100点）
----------------	-------------------------------

以上